

6.3 妙典橋モニタリング調査で得られた課題

妙典橋周辺環境モニタリング調査において、得られた課題は以下の通りであった。今後類似した事業を行う際には、本モニタリング調査で実施した項目に加えて、以下の課題にも留意して、調査項目や地点設定が行われることが望ましいと考えられた。

表 6-3 妙典橋周辺環境モニタリング調査において得られた課題と対応案

項目	課題	対応案
橋脚周辺の流況と底質に関するモニタリング調査	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 橋脚の直近でかつ浚渫部の縁辺にあたる調査地区 (B2'、B3') においては、底質の変動が大きかった。一方で、同調査地区の 20m 程度離れて位置する B2 および B3 地区においては、底質の変動はほぼ見られなかった。 ➤ 橋脚の直近においては、流れの場の変化によって底質に変化が生じることが確認された。 ➤ 橋脚周りや浚渫箇所の縁辺については、調査地点を細かく設定し、底質の変動を把握する必要があるものと考えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今後、類似した事業においては、モニタリング期間中に最低限 1 回、浚渫箇所縁辺及び橋脚直近に底質調査地点を集中的に配置し、底質の変化の有無を確認することが重要である。
構造物と水鳥類の飛翔位置の立体的な位置関係	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 妙典橋は、橋体を極力薄く設計して水鳥類の飛翔経路を阻害しないような配慮がされている。妙典橋完成後に、水鳥類が飛翔経路を阻害されている様子は、ほとんど見られず、橋の上と下、両方を飛翔していた。 ➤ 妙典橋（構造物）と鳥類の飛翔の立体的な位置関係を記録することで、妙典橋の配慮（移動経路を阻害しない）の効果をよりはっきりと示すことができたと考えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今後、水鳥類の飛翔と構造物の関係について考察する際には、単純な飛翔の経路だけではなく、飛翔する水鳥類と構造物の立体的な位置関係も記録することが有効であると考えられた。